

環境報告書に対する監事監査意見書

Auditors' Review

当研究所では、環境報告書を開示する内容の信頼性を高めるために、当研究所の監事による監事監査の一環としての環境監査を経て環境報告書を発行しています。

監事は、環境活動を取りまとめた環境報告書は理事長をはじめ幹部の環境に関する業務執行の結果であるとの認識のもと、年間を通じた環境監査を実施しており、環境報告書発行にあたり環境監査結果を環境報告書に対する監事監査意見書としてまとめています。

独立行政法人農業環境技術研究所「環境報告書 2009」に対する監事監査意見書

平成 21 年 11 月 27 日

独立行政法人農業環境技術研究所
理事長 佐藤 洋平 殿

独立行政法人農業環境技術研究所

監事 水谷 順一

監事 堀 雅文

水谷、堀の両名は、独立行政法人農業環境技術研究所作成の「環境報告書 2009」について、業務監査の一環として行っている環境監査の結果と併せて監査を行い、協議の上、本監事監査意見書を作成しました。

以下のとおり報告いたします。

1. 環境監査の目的

当研究所は、事業そのものが環境に関する研究であります。よって、当研究所の作成する「環境報告書 2009」は、理事長はじめ全職員の業務執行の結果そのものであると認識し、監事監査の対象としました。監査の目的は、同報告書の信頼性を独立した立場から監査し、その結果を報告することです。

2. 監査項目と監査方法

(1) 環境報告書の自己評価体制とその機能の有効性について

- * 監査報告書作成担当部署以外の評価部署の評価体制とその実態
- * 評価部署における評価項目と評価内容

(2) 監査報告書の内容の信頼性について

業務監査の一環として、環境マネジメントシステムの有効性・機能性および法令・規則の遵守状況を、年間を通して、重要資料の閲覧、現場往査等の方法で監査を行っています。その業務監査の結果と、その基礎になる関連資料と本環境報告書の内容（環境マネジメント、各種環境パフォーマンス数値等）との整合性について監査をしました。

3. 環境監査の結果

(1) 環境報告書の自己評価体制とその機能の有効性について

作成部署とは別の部署である監査室が環境報告書を評価する体制をとり、平成 19 年 12 月に環境省から公開された「環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引き」を活用し、忠実に自己評価していることを認めます。

(2) 監査報告書の内容の信頼性について

総じて、昨年よりも内容の充実および信頼性（網羅性、正確性、中立性、検証可能性）共に、向上したと評価します。省エネ活動は上水と電力の使用量に努力の成果があります。化学物質の安全管理は迅速・適確な措置を含め継続が必要です。築 30 年の諸設備は経年劣化による更新時期にあります。緊急性と省エネを重視し、研究業務運営計画に則した高効率の整備実施も同様が必要です。更に全職員の安全意識向上と快適な職場作りについて、管理状況を可視化して、環境マネジメントを進化させ、その結果である同報告書が充実することを期待しています。

以上